

巻 頭 言

横浜市リハビリテーション事業団に在職し、2年が過ぎようとしています。事業団の業務内容については、就任前まで皆無に等しい状況でしたが、障害者の方々にとって非常に大切で、大きな期待が寄せられている機関であることを、改めて感じる日々であります。

事業団には様々な専門領域が存在しており、それぞれの分野で相互に連携し、一步一步着実に前進していると考えます。私も以前、日々あまり変化のないと思われる調査や検査等の業務に従事していましたが、その意義や目的について考えることがありました。その時に大きなヒントとなったのは、積み重ねた業務結果や記録等について、まとめることや検証することが、非常に重要であることに気づかされました。一旦立ち止まって振り返ったことから導かれる改善へのヒントや考察等は、今後展開する内容や進むべき方向性に繋がったと考えます。

先人の言葉には、様々な表現で日々の努力や継続の必要性、重要性が述べられています。リハ事業団の社会への貢献についても、まさに同様であると考えます。その実現に向けた工夫やチーム力を発揮した内容は、その証となり、意義深いものとなりますので、不断の努力と取組は今後も続けていきましょう。

最後に、横浜ラポールとして大変嬉しい出来事がありました。それは、2020年オリンピック・パラリンピックの日本開催が決定したことです。障害者スポーツは徐々にではありますが、メディアなどにも取り上げられ、出場選手への応援や支援の気運も高まってきていると思われます。日本での開催決定を契機に、スポーツがもつチカラで、この意識がさらに浸透し、障害者への理解が広まることが期待されます。皆様も是非一緒に応援していきましょう。

障害者スポーツ文化センター横浜ラポール

館長 白 井 進